

フィリピン大学

交換留学報告書

静岡県立大学

国際関係学部

国際言語文化学科 3年

フィリピン大学に約9か月間滞在したことは自身の人生において大きな経験であると感じる。現地で多くの大人、学生、そして他の国からの交換留学生たちと交流して異文化に対する理解を深めることができた。またその経験から得ることが非常に多く、いままで当たり前だと思っていたものが特殊なものになったり、逆にいままでおかしいとおもっていたことが常識になったりしていった。この報告書では学校生活、寮生活、課外活動について報告していきたい。

一つ目に述べていきたいのは学生生活である。わたしが交換留学先に選んだのはフィリピン大学デリマン校という大学だった。とても学内の競争が高く、懸命に勉学に取り組む現地の学生とともに講義を受け、課題を提出していくことはとても大変であったが、それと同時におおきな達成感を得ることができた。わたしはフィリピンの経済学の授業と英語の授業をとっていたがやはり理解が難しいことが多くあった。しかし学校生活で仲良くなった現地の学生、また教授の助けを借りることができとても充実し、また学問についても理解を深めることのできた素晴らしい学校生活であった。

二つ目は寮生活である。私はキャンパス内にあるアカシア寮という寮に滞在していて、そこで多くの現地の学生、交換留学生と交流することができた。毎晩ロビーや部屋に集まりみんなでトランプやボードゲームをしたり学校生活や将来の夢、人生の在り方まで語り合った。これらの経験は私の価値観や考え方を大き

く変えるだけではなく、人生のなかでもかけがえのない時間であった。



三つめは課外活動である。わたしは学校の活動に加えて貧困地域や被災地域のボランティア活動に参加した。留学の来る前から開発経済学を勉強していたこともあり参加したが実際の状況はおもっていたよりも何十倍深刻で貧困な家庭はその日暮らしもやっとなような家庭もあった。ボランティア活動時に実際に伺って驚いたのが一か月の給料が 3000 ペソ（6000 円くらい）で五人家族を養っているという話であった。物価水準が日本よりは低いとはいえ家賃、光熱費にお金を支払えば食にさえ、お金をかけられないような家族がいることには考えさせられた。

ボランティア活動以外にも友人と休日を使って国内を旅した。マニラから外れた場所も見ることのできるフィリピンのよりいいところも悪いところも見ることができた。かなり外れたところまで行くとコミュニケーションがとりにくいことなどがあり、少し怖いときもあったが、どこにいてもフィリピンの方は陽気でとてもやさしく、ひとの雰囲気にとっても惹かれる国であった。



フィリピンで過ごした9か月は大変なことも多くあったが自分の成長に大きくつながり、知識、価値観、コミュニケーション力がとてもつき、近くのことだけを見るだけではなく大きな視野を持つことの大切さを学んだ。他の国も選択肢にあった中フィリピンという国に留学を決めたことは正解であったと感じるし、それを支えてくれた家族、友人、先生方をはじめ出逢った方々、そしてこの留学の機会を与えてくれた大学に心から感謝したい。この経験を自身の将来に活かしていきたいと思う。